

Perfect

ファーマライズホールディングス株式会社

第24期 株主通信

2009年6月1日～2010年5月31日

(証券コード 2796)



ファーマライズグループでは地域に特長を持つ仲間とのネットワーク構築し、全国に新しい付加価値を提供します。キーワードは「調剤を科学する」。



代表取締役社長 大野 利美知

Q1 24期（2009年6月1日～2010年5月31日）業績について教えてください。

当期における経済情勢は、積極的な財政出動と中国・インド等の新興国による旺盛な需要回復により持ち直しの傾向が見られたものの、ギリシャの財政不安に端を発するEU圏での新たなリスク発生により、株式市況等は再び低迷しています。

当社グループの属する調剤薬局業界では、前半では新型インフルエンザの流行や新政権発足による医療政策見直し等があり、後半では平成22年4月から薬価・調剤報酬の改定が実施されました。

そのような中、当社グループでは持株会社であるファーマライズホールディングス株式会社を軸に機動的な意思決定と積極的な事業展開を行い、連結業績として、売上高

23,416百万円（前年同期比17.0%増）、営業利益982百万円（前年同期比82.1%増）、当期純利益220百万円（前年同期比0.7%減）と順調に業績推移することができました。

24期のトピックスとして、まずはグループ会社が5社増えたことがあげられます。連結子会社として平成21年9月に株式会社三和調剤（東京都3店舗）と株式会社ハイレンメディカル（北海道20店舗、秋田県2店舗）、平成22年1月に有限会社北町薬局（東京都3店舗）がグループ入りし、持分法適用会社として平成22年3月に有限会社エム・シー（仙台市3店舗）、平成22年4月に新世薬品株式会社（兵庫県14店舗）がグループ入りしました。

続いて、当社グループの強みである地域医療について、在宅医療・施設調剤の当初計画の水準をほぼ完全に達成できました。さらに、今後に向けた取組みとして、薬局で一般医薬品を充実させることに加えてメディカルアロマやサプリメントを取り揃えることで新たな付加価値の提供に向けて模索しております。

なお、当社の配当方針は、株主に対する利益還元を経営の重点政策と位置付けて、安定的かつ継続的に業績の成長に合った成果の配分を行うこととしています。当期の配当金につきましても1株につき2,000円とし、当初予定と変更ない旨も併せてご報告申し上げます（平成21年12月1日を効力発生日として1：3の株式分割を実施しています）。

Q2 「調剤を科学する」とは、どういうことですか。

当社グループでは、社是の「パーフェクト」とともに「調剤を科学する」ということを重要なコーポレートポリシーとして掲げています。

「調剤を科学する」ということは、医療提供施設としての高い薬局の機能を実践するために、薬学の視点から調剤を徹底的に分析し、患者や地域の医療ニーズに対して高い満足感を提供することです。『薬学をもって調剤を行うこと』と言い換えることもできます。具体的に3つの取組みについてご紹介いたします。

1つ目は、当社医薬情報研究所による「ジェネリック医薬品の取組み」です。「ジェネリック医薬品の効果や品質に漠然とした不安があり、どれを選べば良いのかわからない」という声に応え、当社グループでは、ジェネリック医薬品の品質および効果について、徹底したエビデンスの収集と分析を行い、推奨品目を選定して患者や医療機関に情報提供しています。また、ジェネリック医薬品への変更後も実際に薬を変更した後の体調変化の有無等の情報収集を徹底して、分析・評価を行っています。

2つ目は、「地域医療の推進」です。特に高齢者においては、複数の薬や、食物との相互作用、合併している病気の悪化を招く薬剤の使用や食品の摂取の回避、口から薬を飲めなくなったときの薬の選択など、薬学の知識と迅速な対応・技術が求められます。当社は、こうした在宅医療における調剤の技術と経験を活かし、これからも在宅医療や施設調剤を通じて地域医療に貢献してまいります。

3つ目は、「新たな薬局機能の開発」です。当社グループでは認知症、インフルエンザ予防、禁煙等に使用するメディカルアロマオイルや、生活習慣病の合併症予防効果のある医薬用サプリメントの販売を行っています。いずれも論文根拠のある商品選択を行い、品質にもこだわりを持ち、独自の販売戦略を推進しております。

当社グループでは、これらの取組みを「調剤を科学する」と表現し、グループ方針として共有しています。

Q3 薬剤師の地域医療について教えてください。

当社グループが考える「薬剤師にとっての地域医療」の両輪は、在宅医療と施設調剤です。

薬剤師の在宅医療とは、医師・看護師等とともにチームを組み、高齢者や終末期の患者の薬の管理や指導を行うことです。施設調剤は、高齢者や身体障害者など各種の施設に赴き、薬全般に関するケアを行うことです。

どちらも、まだ薬剤師にとって歴史が新しく、薬剤師が関与しているケースは全国的にもそれほど多くありません。しかし、在宅医療を国家的プロジェクトとする国策の後押しもあり、今後、在宅医療が第三の医療として確実に地域に根づいていくことが予想されます。

当社グループでは、薬学医療の立場から地域の医療人との人的ネットワークを組み立て、患者を軸とした地域医療体制を構築する支援を行うというアプローチで、地域医療への貢献を目指しています。

Q4 社名・コーポレートロゴについて教えてください。

社名の「ファーマライズ」は、薬局を意味する「ファーマシー」と、日の出を意味する「サンライズ」の「ライズ」の二つの言葉を合わせた造語です。

ロゴは十三夜の月をイメージして描いたもので、満月ではなくもう少しで満月になるうとする姿です。2枚の羽は、「情熱の赤い羽」と「知性の青い羽」で、これから羽ばたこうとする決意を表したもので、本当にやるべきことを追求し続ける心意気を示しています。

社名には朝日を織り込み、ロゴには月を描くことで、スケール感とバランス感覚をもって社業の発展に努めたいとする思いを込めています。



Q5 株主、投資家の皆様へのメッセージをお願いします。

当社グループは、平成21年6月に会社分割により新設された統括持株会社を中心に、調剤薬局事業を営む事業会社で構成されています。

当社グループが展開する調剤薬局の特長は、質の高い調剤サービスを安定的に提供できる能力を裏付けに地域にドミナント圏を形成して、積極的に地域医療に関与してきたことで、その基盤は、いまや日本全国に拡大しています。

これからも、「薬剤医療の観点から全国の地域医療に貢献すること」を通じて、「地域社会に貢献する」とともに「地域医療における薬剤師のポテンシャルを開発する」という方針のもとで、業務に邁進する所存であります。

その一方で、既に公表いたしました「元役員による不適切な取引」等のような事態を2度と発生させないために、現在当社グループが直面する急速な成長過程におきましても、コーポレートガバナンスや内部統制の整備に注力して、組織の最適な形を継続的に検討する取組みにも注力したいと考えています。

株主、投資家の皆様におかれましては、引き続きご理解とご支援をいただけますようよろしくお願い申し上げます。

1. ファーマライズの現場力

ファーマライズの現場力を支える現場担当者を紹介いたします。

(1) ファーマライズホールディングス株式会社 第7回学術大会を終えて 第7回学術大会実行委員長 松浦恵子（株式会社みなみ薬局 取締役）

去る7月4日（日）にファーマライズグループ社員一同が東京に集結し、外部招待者を含めて600余名という他社にはない規模で開催される学術大会を盛会裏に終ることができました。

今回のメインテーマは、『専門性を究める』～目指せ！真のプロフェッショナル～と題し、特別講演として「料理評論家」の山本益博さんをお招きして「職人仕事の完璧主義者 イチローと次郎」をテーマにマスヒロ流にユーモアを交えながらプロの仕事についてのご講演をいただきました。

また、医療現場の医師や製薬会社でデータ分析に携わる研究者の方々をシンポジストとしてお招きし、薬局機能のさらなる向上に向けて様々なシンポジウムを開催いたしました。特に、当社グループの重要な取組みの一つである地域医療についてのシンポジウムでは、興味深い発表とそれに関する白熱したディスカッションが行われ、調剤薬局の医療提供施設としての重要性を改めて認識することができました。

当社グループの社員は、調剤薬局の社会的要請や患者さんの信頼に応えるべく、真のプロフェッショナルになるために日々研鑽し続ける思いを新たにしたい日でした。



第7回学術大会実行委員長 松浦恵子
(株式会社みなみ薬局 取締役)



(2) 『薬剤師+One』を持つ人材の育成

みなみ薬局 事業部課長 森下寛士

私は、現在、ファーマライズグループの事業会社である株式会社みなみ薬局で店舗の運営管理業務を行っています。

ファーマライズグループの事業方針である、「地域医療への貢献」「良質な医療サービスの提供」のさらなる進化に貢献すべく日々業務に邁進しています。特に最近では、在宅・施設調剤の導入や一般用医薬品、中でも「第一類医薬品」と呼ばれる「処方せん医薬品以外の医薬品」の販売強化を行い、調剤業務に留まらず幅広く地域の患者やそのご家族のニーズやウォンツを探りながら、地域医療における薬局の役割をさらに進化させたいと考えています。

そのための礎は人材の育成に尽きると考えます。先日、私自身のチャレンジとして京都国際会館で開催されました日本アレルギー学会に参加し、「喘息死ゼロを目指して薬局薬剤師のできること」と題して演題発表を行ってまいりました。専門医中心の外部学会で今までになく緊張しましたが、内部外部からの様々な支援や、発表までの綿密な準備を通じて大変勉強することができ、自分自身の成長につながったと自負しています。

7月4日には第7回社内学術大会も行われました。このようにファーマライズグループには、問題意識をチャレンジングに突き詰める風土があります。私は、この風土を最大限に活用して、日々の薬剤師業務だけでなく、店舗運営管理や学術、人材育成研修、過誤防止等、【『薬剤師+One』のスキルを持つ人材の育成】に取り組んでまいりたいと考えています。



株式会社みなみ薬局
事業部課長 森下寛士



ポスター演題



社内研修

2. 3社を連結子会社化

平成21年9月に株式会社三和調剤（本社：東京都武蔵野市、3店舗）と株式会社ハイレンメディカル（本社：北海道伊達市、22店舗）を、平成22年1月に有限会社北町薬局（本社：東京都練馬区、3店舗）を連結子会社といたしました。

3. 2社と資本業務提携

平成22年3月に有限会社エム・シー（本社：宮城県仙台市、3店舗、出資比率34.0%）、平成22年4月に新世薬品株式会社（本社：兵庫県淡路市、14店舗、出資比率33.3%）と資本業務提携を締結し、持分法適用関連会社といたしました。

4. 第一類医薬品・メディカルアロマ・医療用サプリメント等の販売促進

薬局薬剤師に教育研修を施してアロマ・サプリを含めた幅広い専門知識を習得させ、薬歴管理を実施している患者やその家族の方に、適切な第一類医薬品・メディカルアロマ・医療用サプリメント等を提供できる体制を整備しています。

5. 新本社に移転

業容拡大に伴い、平成22年4月から新本社に移転しました。新本社では本社機能が1フロアーに収まるため、各部門の連携やコミュニケーションがスピーディーになり、業務効率の改善が見込めます。

6. ホームページを刷新しました

平成22年7月にファーマライズホールディングス株式会社のホームページを全面刷新いたしました。ファーマライズグループの理念を訴求するとともに、情報の鮮度や検索容易性においてもバージョンアップされていますので是非ご確認下さい。

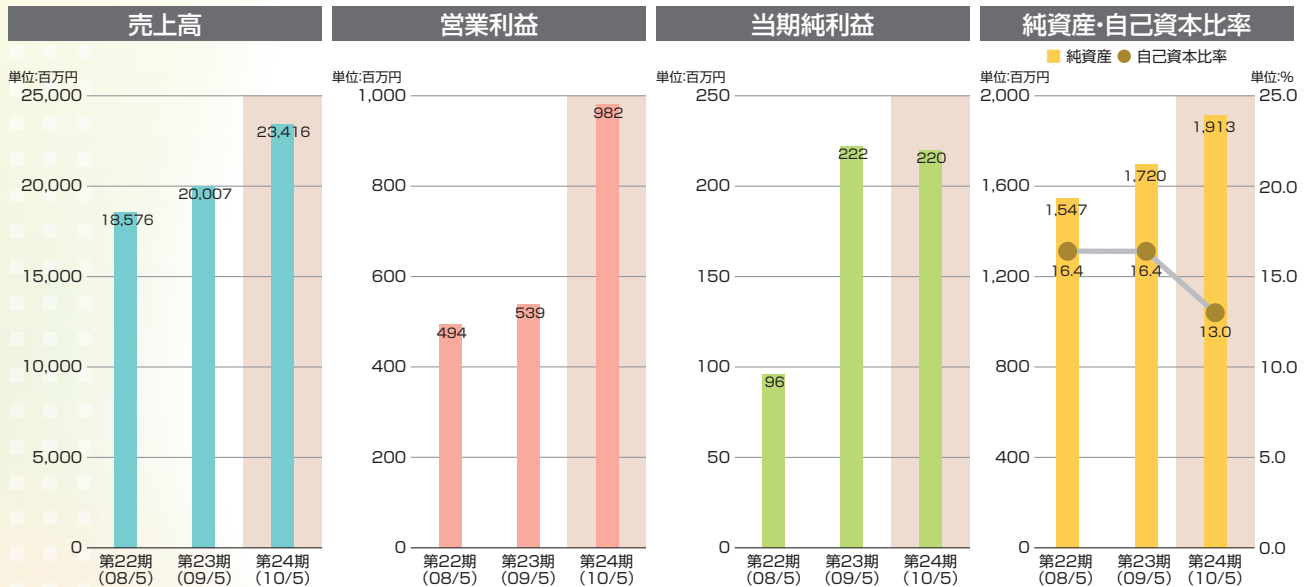


新本社



メディカルアロマ

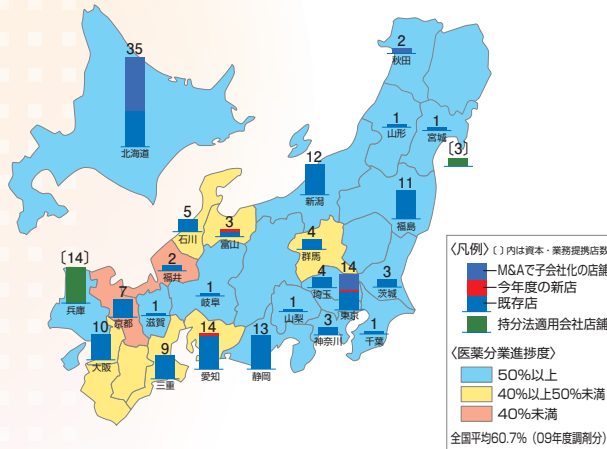
連結財務ハイライト



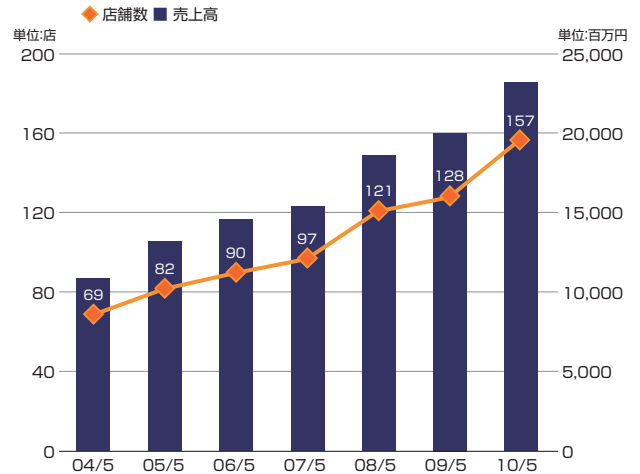
※有価証券報告書等におきましては、前期損益修正損ではなく過年度決算の遡及訂正を行っておりますので、上記と一部数値が異なっております。

都道府県別出店状況(2010年7月時点 157店※)

地方のドミナント形成を推進 ※157店の内訳：調剤薬局153店、F C2店、その他2店



店舗数・売上高の推移



連結決算概要

連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

科 目	当連結会計年度 平成22年5月31日現在	前連結会計年度 平成21年5月31日現在
資産の部		
流動資産	6,632	5,091
固定資産	7,150	5,242
有形固定資産	3,558	3,334
無形固定資産	2,072	864
投資その他の資産	1,519	1,043
繰延資産	4	1
資産合計	13,786	10,335
負債の部		
流動負債	7,372	5,848
固定負債	4,500	2,766
負債合計	11,873	8,615
純資産の部		
株主資本	1,782	1,690
資本金	580	580
資本剰余金	527	527
利益剰余金	763	585
自己株式	△ 88	△ 2
評価・換算差額等	12	7
少数株主持分	118	22
純資産合計	1,913	1,720
負債及び純資産合計	13,786	10,335

※有価証券報告書等におきましては、前期損益修正損ではなく過年度決算の遡及訂正を行っておりますので、上記と一部数値が異なっております。

●連結貸借対照表のポイント

- ・流動資産増加の主な要因は、子会社の増加等による業容拡大に伴い、営業債権（売掛金等）が増加したこと、長期資金を調達して手元現預金を増加させたためです。
- ・固定資産増加の主な要因は、M&Aにより株式会社三和調剤や株式会社ハイレンメディカルを取得した際に発生したのれん代です。
- ・流動負債増加の主な要因は、業容拡大による買掛金の増加と、1年以内返済予定の長期借入金の増加によるものです。
- ・固定負債増加の主な要因は、中期的な資金の運用調達バランスを考慮して、積極的に長期資金の調達を行ったためです。

●連結損益計算書のポイント

- ・売上高増加の要因は、既存店が好調に推移したことに加えて、M&Aにより新たに3社がグループ入りし、28店舗（株式会社ハイレンメディカル22店舗、株式会社三和調剤3店舗、有限会社北町薬局3店舗）増加したためです。
- ・当期より持株会社体制に移行して店舗運営を事業子会社に委ねたことにより、店舗運営（人員配置、在庫管理等）が効率化して利益率が改善しております。
- ・特別損失の内訳には、前期損益修正損と回収可能性に疑義のある資産の減損処理が含まれています。

●連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

- ・営業活動によるキャッシュ・フローでは、前連結会計年度まで運転資金の圧縮が寄与していましたが、当連結会計年度の運転資金はほぼ適正水準で推移いたしました。
- ・投資活動によるキャッシュ・フローの主な内訳は、M&Aで取得した3社をはじめ調剤薬局事業に関する資産の取得に係るものです。
- ・財務活動によるキャッシュ・フローでは、約定返済を進める一方で、中長期的に安定した資金調達構造を作るために固定金利による長期資金の確保に積極的に取り組んでいます。

連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

科 目	当連結会計年度		前連結会計年度	
	自 平成21年6月 1日 至 平成22年5月31日		自 平成20年6月 1日 至 平成21年5月31日	
売上高	23,416		20,007	
売上原価	20,223		17,514	
売上総利益	3,193		2,493	
販売費及び一般管理費	2,210		1,953	
営業利益	982		539	
営業外収益	29		21	
営業外費用	239		153	
経常利益	773		407	
特別利益	0		39	
特別損失	248		5	
税金等調整前当期純利益	524		442	
法人税、住民税及び事業税	456		208	
法人税等調整額	△ 159		8	
少数株主利益	7		2	
当期純利益	220		222	

連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：百万円）

科 目	当連結会計年度		前連結会計年度	
	自 平成21年6月 1日 至 平成22年5月31日		自 平成20年6月 1日 至 平成21年5月31日	
営業活動によるキャッシュ・フロー	807		1,272	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,612		△ 889	
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,475		94	
現金及び現金同等物の増加額	670		478	
現金及び現金同等物の期首残高	1,921		1,443	
現金及び現金同等物の期末残高	2,592		1,921	

連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度（自 平成21年6月1日 至 平成22年5月31日）

（単位：百万円）

	株主資本					評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	少数株主 持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
平成21年5月31日残高	580	527	585	△ 2	1,690	7	22	1,720
連結会計年度中の変動額								
剰余金の配当			△ 42		△ 42			△ 42
当期純利益			220		220			220
自己株式の取得				△ 85	△ 85			△ 85
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額						5	95	101
連結会計年度中の変動額合計	-	-	178	△ 85	92	5	95	193
平成22年5月31日残高	580	527	763	△ 88	1,782	12	118	1,913

* 有価証券報告書等におきましては、前期損益修正損ではなく過年度決算の遡及訂正を行っておりますので、上記と一部数値が異なっております。

個別決算概要

単体貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

科 目	当事業年度 平成22年5月31日現在	前事業年度 平成21年5月31日現在
資産の部		
流動資産	1,811	3,928
固定資産	3,271	4,936
有形固定資産	246	2,796
無形固定資産	75	470
投資その他の資産	2,949	1,669
繰延資産	2	1
資産合計	5,085	8,867
負債の部		
流動負債	1,232	4,692
固定負債	2,627	2,755
負債合計	3,859	7,447
純資産の部		
株主資本	1,212	1,412
資本金	580	580
資本剰余金	527	527
利益剰余金	193	307
自己株式	△ 88	△ 2
評価・換算差額等	13	7
純資産合計	1,225	1,419
負債及び純資産合計	5,085	8,867

単体損益計算書（要約）

（単位：百万円）

科 目	当事業年度 自 平成21年6月 1日 至 平成22年5月31日	前事業年度 自 平成20年6月 1日 至 平成21年5月31日
売上高	328	13,964
売上原価	43	12,162
売上総利益	285	1,802
販売費及び一般管理費	223	1,470
営業利益	61	331
営業外収益	93	108
営業外費用	96	181
経常利益	58	257
特別利益	—	19
特別損失	148	5
税引前当期純利益	△ 89	271
法人税、住民税及び事業税	3	132
法人税等調整額	△ 21	10
当期純利益	△ 70	129

※当社は平成21年6月1日付で新設会社分割を行い、新設会社のファーマライズ株式会社にて調剤薬局事業を承継しています。そのため、当事業年度と前事業年度の数値に大きな差異があります。

※有価証券報告書等におきましては、前期損益修正損ではなく過年度決算の遡及訂正を行っておりますので、上記と一部数値が異なっております。

会社情報

■ 会社概要

設立	1984年6月
社名	ファーマライズホールディングス株式会社
資本金	580,075千円
本店所在地	東京都中野区中央1-38-1
事業内容	持株会社（調剤薬局事業を営むグループ会社を統括する管理運営会社）
ホームページ	http://www.pharmarise.com
主要取引銀行	株式会社三菱東京UFJ銀行 株式会社みずほ銀行
連結従業員数	760名（2010年5月末現在、非常勤含む）

■ 役員（2010年8月30日現在）

代表取締役社長	大野 利美知
常務取締役	大野 小夜子
常務取締役	村上 典夫
取締役	秋山 昌之
取締役	小高 芳夫
取締役	三浦 誠
取締役	藤平 栄一
取締役	菅野 洋
監査役	地 搦 幹夫
監査役	加部 英視
監査役	佐藤 勝

■ 株式の状況（2010年5月31日現在）

発行可能株式総数	85,860株
発行済株式総数	21,465株
株主数	602名

■ 大株主の状況（2010年5月31日現在）

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
大野 利美知	10,533	51.9
ファーマライズ従業員持株会	1,169	5.8
株式会社アイセイ薬局	1,064	5.2
大野 小夜子	744	3.7
平松 仁	481	2.4
鈴木 孝雄	300	1.5
青山 光雄	281	1.4
大和証券株式会社	185	0.9
笛木 八重	135	0.7
山本 登喜	117	0.6

■ 主要仕入先

株式会社スズケン 株式会社メディセオ
中北薬品株式会社 他

■ 連結子会社（8社）

名称	住所	事業内容
ファーマライズ株式会社	東京都中野区	調剤薬局事業
株式会社みなみ薬局	静岡県御殿場市	調剤薬局事業
株式会社南魚沼調剤センター	新潟県南魚沼市	調剤薬局事業
株式会社双葉	京都市東山区	調剤薬局事業
株式会社ふじい薬局	北海道苫小牧市	調剤薬局事業
株式会社三和調剤	東京都武蔵野市	調剤薬局事業
株式会社ハイレンメディカル	北海道伊達市	調剤薬局事業
有限会社北町薬局	東京都練馬区	調剤薬局事業

株主メモ

事業年度	6月1日～翌年5月31日
定時株主総会	8月
基準日	5月31日
単元株式数	1株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
公告の方法	電子公告の方法によります。ただし電子公告による ことができない事故その他やむを得ない事由が生じ た場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL	http://www.pharmarise.com
証券コード	2796 (ジャスダック)



<http://www.pharmarise.com>

<お問い合わせ先>

経営企画部

TEL : 03-3362-7130 FAX : 03-3362-7190

E-MAIL : ir@pharmarise.co.jp